

音楽文化創造学科教授 舟橋 三十子

1. 研究活動

【科学研究費採択】			
科学研究費助成（基盤研究（C）（一般））採択課題「音楽基礎教育としての独創的なソルフェージュ教材開発に関する総合的研究」 研究代表者 2013年度～2015年度（研究課題番号：2537019）	2013. 4. 1	日本学術振興会	音楽の基礎学習としてのソルフェージュ教育の原点に立ち返り、独創的な教材を研究し、新たな指導方法の確立を目指す。
【コンクール審査】			
ローランド・ピアノ・ミュージックフェスティバル 2013 中国四国 A 本選 小学生・中高生・一般部門	2013. 12. 1	広島市西区民文化センターホール	予選に合格した参加者のステージ演奏を審査し、講評した。
【研究紀要】			
新しいソルフェージュ～フォルマシオン・ミュージカルへの展望	2014. 3. 28	名古屋芸術大学研究紀要 第35巻	名古屋芸術大学平成 25 年度研究紀要

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

授業科目 ソルフェージュⅠ、Ⅱ	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
一般的な聴音、新曲だけでなく、分析、理論、移調、リズム、音程練習等を加えてアプローチしている。また、様々な時代や作曲家、国の名曲をテキストに用い、幅広い視点から音楽をとらえ、学生が何のためにソルフェージュを学ぶのか、その目的をはっきりさせて、授業を学ぶモチベーションを高めるようにしている。	フランスの教本（フォルマシオン・ミュージカル）の日本語版（拙訳）を用い、新しい考え方に基づいた方法を実施している。また教材として用いた作品のCD、DVDを使用し、譜面からだけでなく、視覚的・聴覚的な要素も視野にいった方法での楽曲へのアプローチを試みるようにしている。
授業科目 楽式論（楽曲分析を含む）	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
よく知られたピアノ作品から始まり、最終的には、古典派、ロマン派、近代の作品までのアナリゼを実施している。予習に重点を置き、自分の力で分析できるようにさせている。過去に学んだ和声学の知識を生かし、最終的にはポリフォニックな音楽にも踏み込んでアナリゼできるようにしている。	基本的な和声の復習から始まり、小品だけでなく、最終的には簡単な室内楽の楽曲の分析ができるように、パソコンのソフト（フィナーレ）で作成した独自の譜面を参考資料として用いるようにしている。またDVD等のメディアを用い、オリジナルの編成での楽曲にも親しむように工夫している。
授業科目 キーボード・ハーモニー	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
コードネームや和音記号を用いた伴奏付けや、旋律に合った対旋律（オブリガート）を付けるなど、音楽の教師を目指すに当たって、教育の現場で実際に役に立つ学習を行っている。よく知られた旋律に正しいハーモニーを付けるなど、和声学で学んだ机上の学問を実践で役立たせるように工夫している。	毎回の授業時に、CD、DVD等の機器を使用して、1つの楽曲を様々な編成で演奏したものを模範として聞かせている。古今東西の名曲を教材として使用することは、幅広い知識を必要とされる音楽教育の面からも欠くべからざることなので、幅広いジャンルの曲を聞かせるように努めている。

3. 学会等および社会における主な活動

(社)日本作曲家協議会	1978. 4～2013. 9	
文化経済学会	2000. 4～2014. 3	
日本ソルフェージュ研究協議会	2009. 4～現在に至る	
日本音楽表現学会	2012. 6～現在に至る	